

# ウッドデザイン賞2016 実施概要

募集期間 2016年6月20日～7月27日

総応募数 451点

受賞数 251点

最優秀賞 1点 / 優秀賞 9点 / 奨励賞 15点

※掲載情報は開催当時のものです

## 審査会の様子

第二次審査では、木製品等の現物を始め、多くのプレゼンテーション資料が提出されてきます。各分野を代表する審査委員がひとつひとつに触れ、見入りながら審査が進みます。「これはどの点に新しさがあるか」「ただ木を使う、だけではない木ならではの良さを引き出しているか」など、論点に立ち返りながら、延々と議論が続きました。



## 発表・表彰式

昨年に続き、最終審査を経て選ばれた最優秀賞（1点）、優秀賞（9点）、奨励賞（15点）の発表及び表彰式が12月8日、日本最大級の環境展示会「エコプロ2016」のイベントステージにおいて実施されました。表彰式では、今井敏野庁長官、吉条良明全国木材協同組合連合会会長のご臨席を賜りました。受賞者には賞状が手渡され、栄えあるウッドデザイン賞の上位賞に選出されたことの喜びの音が多数、聞かれました。



ライフスタイルデザイン部門優秀賞の皆さん 最優秀賞・トヨタ自動車様 今井敏様



吉条良明様 赤池審査委員長 ハートフルデザイン部門優秀賞の皆さん ソーシャルデザイン部門優秀賞の皆さん

## シンポジウム&交流会

表彰式後、東京ビッグサイトのレセプションホールにおいて、「ウッドデザイン賞2016シンポジウム」が開催されました。今年を受賞者から最優秀賞、各部門優秀賞から1団体ずつ、計4者の開発ストーリーのプレゼンテーション、審査委員によるセッションが行なわれました。その後、受賞者、関係者、審査委員を交えた交流会が催され、お互いの取組や製品開発などについて熱く語り合っていました。



## 受賞作品展示

「エコプロ2016」では、「ウッドデザイン賞2016特設ブース」を設置し、受賞作品全点のパネル展示、木製品の一部の実物展示が行われました。最優秀賞の木製自動車「SHISSUNA」の実車を始め、見て、触れることができるユニークで機能的な木の作品が数多く展示され、大変多くの来場者にお越しいただきました。スマートフォンで写真を撮影し、さっそくSNSにアップしている方も多くいらっしゃいました。



## ライフスタイル提案ゾーン

新たな試みとして、「木のある快適で豊かな暮らし」のワンシーンを再現しました。一般社団法人日本インテリアコーディネーター協会（ioco）東京圏支部・木づかいクラブ様の御協力のもと、大変素敵な空間を多くの方に楽しんでいただきました。





**建築・空間分野**  
**日本橋とやま館「富山らしさを表現する木づかい」**(東京都)  
 富山県(富山)、株式会社乃村工藝社(東京)  
 富山県のアンテナショップであり、産地に眠っていた原木、製材品、加工品などさまざまな工程段階の木材を現地で選定、調達しデザインしている。巨大な立山連峰をイメージした木格子壁はインパクトがあり、ナラ虫食い材の利用やクリ・ナラなどの異種材の幅はぎ材をテーブル天板に使うなど素材と加工のバリエーションで木材利用の可能性を引き出している。地域の魅力発信と地域材の利活用が高次元に融合した空間として、富山の木から富山の価値を生み出すプロセスを通じて地域に貢献するという強い責任感と愛着を生みだしている。

**建築・空間分野**  
**新柏クリニック(千葉県)**  
 医療法人社団中郷会 新柏クリニック(千葉)、株式会社竹中工務店(東京)  
 透析治療を行う方々の負担感を軽減し、心身の健康につながる最良の医療施設を目指し、木の癒し効果に着目した「森林浴のできるクリニック」づくりに取り組んだ。本物の国産木材の利用にこだわり、新しい防耐火技術の導入により都市部において木造・木質化された医療施設を実現した。人間の心身に好影響を及ぼす木が本来、医療施設に使われることが理想的だが、衛生面やメンテナンス面、コスト面で敬遠されてきた。こうした分野での木造建築は大きな意義がある。屋外の眺望と一体化した、美しい木質空間は患者の心に安らぎを与えてくれる。

**技術・研究分野**  
**産学官連携「病院木質化プロジェクト」**(北海道)  
 株式会社ハルキ(北海道)、札幌市立大学看護学部(北海道)、北海道渡島総合振興局産業振興部林務課(北海道)、パワープレイス株式会社(東京)、株式会社セントラルユニ(東京)、株式会社アイ・ビー・エス(北海道)  
 産学官が連携し、通常は無機質な病室空間に地域材を活用するため、ウッドインフィル「病室ユニット」を開発・試作した。さらにウイルスや細菌、アルコール消毒等に対する木材への影響を調査し、地域材の需要消費拡大・付加価値向上・ブランド化を目指している。木の癒し効果や精神安定効果は病院施設にとって有用なものであり、高齢化を迎える社会背景からもそのニーズは高い。本作品の新規性は改築を必要とせず、ユニットで提供できる点にあり、一般の病院での普及促進の可能性を持っている。導入後のエビデンスの収集にも期待したい。

最優秀賞(農林水産大臣賞)



**ソーシャルデザイン部門 / 技術・研究分野**  
**コンセプトカー SETSUNA(愛知県)**  
 トヨタ自動車株式会社(愛知)  
 「SETSUNA」のコンセプトである「歳月を経て変わることを愛でる」を木を用いて具現化したものである。木は手を掛けたいわゆることで色や風合いが変わり、愛情を注ぎ幾世代も受け継ぐことで、その家族だけのクルマへと変化する。コンセプトの表現として、外板は杉、フレームには樺といった用途に応じた木材の選定をし、一つ一つのパーツの大小や配列にもこだわった。組み付け構造には釘やネジを使用しない日本古来の伝統技法である送り蟻などを取り入れ、ボディラインは船のような美しいカーブを描く。さらに、世代を超えて時を刻む100年メーターや、機能美と木の優しい色合いが融合したシートなど、歳月を経て輝きを増す。自動車づくりの専門性と木材利用の専門性が協働した優れたプロジェクトであり、多様な業種、分野において、消費者目線で木材を積極的に活用するという明確な目的を満たしており、ウッドデザイン賞の主旨に最もふさわしい。こうした先導的な役割を担う取組が、医療・福祉機器をはじめとする他の業種・業態へ木材利用を波及させるための模範例となりうる。

**建築・空間分野**  
**堀切の家(東京都)**  
 桜設計集団一級建築士事務所(東京)、櫻井登志子、藤原恵子、鯉組(東京)  
 「地産都消の実践(つくる)」「技術・性能の裏付けを持つ(つかう)」「耐久性確保とメンテナンスの容易性(つなぐ)」をコンセプトとした、木造密集市街地(準防火地域)に建つ木造2階建て住宅で、材をあらわししながらも地震や火事にも負けない設計上の配慮を随所に施している点は社会提案性に優れる。都市部で木造建築物を計画する際のすべてのソリューションを網羅しているお手本のような物件である。材をあらわしにした建物外観や外構は、街にやすらぎを与えることにもつながっている。

**建築・空間分野**  
**平成28年熊本地震における木造応急仮設住宅の供給(熊本県)**  
 公益社団法人日本建築士会連合会(熊本)、一般社団法人木と住まい研究協会(東京)  
 被災された方々が安らぎある生活を早く送れるよう、熊本県産の木材を多用した応急仮設住宅を企画し熊本県に提案したもの。地元事業者を斡旋し、材料調達や施工などで地元事業者が連携し、宇城市で60戸を建設した。応急仮設の木造住宅として、普段手に入るもの、地元でつくれるものというコンセプトが素晴らしい。その仕組みと活動実績が高く評価された。3週間という短工期で完成できる点も重要である。災害国・日本における被災地対応と地域材・地域資源の活用の両立という点において、社会性の高い取組である。

**コミュニケーション分野**  
**大工と組む わが家再生(愛知県)**  
 株式会社新和建設(愛知)  
 つくり手技術集団が住まい手をエスコートする安心のわが家再生を実現する活動。技術を持つ大工と、地域の優れた木材、システム化された工程・品質管理により均一化した品質で、計画的に木造民家を再生できるビジネスモデルであり、地域特性と100年を超える民家再生、大工のノウハウ導入といった多様な側面を持つ。木造民家の多い地域における空き家問題を未然に防ぐ仕組みを目指している。ストック住宅は社会的課題であり、木造民家をストック化させず、暮らしの質の向上と地域材の利活用を両立させる社会提案性の高さが光る。

**建材・部材分野**  
**Jパネル(鳥取県)**  
 協同組合レングス(鳥取)  
 「よりよい環境と健全な森を取り戻したい。地震にも台風にも火災にも強い家がいい。木の良さはそのままに性能や品質も求めたい」との思いから生まれた。国産材のスギ・ヒノキを100%原料とした交差集成板で薄型のCLTでは唯一の先駆的モデルである。用途は木造軸組工法における床・天井・壁・軒裏などの仕上げ材を兼ねた構造用面材や造付け家具など幅広く、地域材の利用拡大に貢献している。

**技術・研究分野**  
**耐震補強技術 T-FoRest(大阪府)**  
 株式会社竹中工務店(大阪)  
 CLT、集成材、LVL等のエンジニアウッドの高強度性や加工性、軽量可搬性を活かし、RC造等の大規模建築物の耐震補強を行う木質系耐震補強システム。CLT・LVLは接着剤、集成材プレースはバネの力を利用して固定し、振動や騒音がほとんどなく工期短縮もできる。木造を木で補強する事例は多数存在するが、RC造建築物を木で補強する例は新規性があり、機能性重視に偏りがちな技術ながらデザイン的にもよくまとまっている。国土強靱化と木材利用を両立させた良質な取組である。

**技術・研究分野**  
**Roll Press Wood(山形県)**  
 株式会社天童木工(山形)  
 軟質がゆえ、家具用材としては不向きとされてきた杉などの針葉樹を、独自開発のロールプレス工法で強度を高めた単板へと変え、その単板を重ね合わせて型で曲げて成形し自由な曲線を持つ丈夫な部材を作る、世界初の技術である。ローラーで連続的に圧密する工法のため、熱を加える時間が短く自然な色を残せるほか、連続作業によって大量圧密化が可能となった。日本各地の軟質針葉樹に優れた機能を付加する技術であり、木材の耐久性、耐候性を高める素材開発方法として新規性が高く、デザインの、機能的な用途拡大に貢献している。

( )内の「都道府県」は建築物などの所在地、活動が実施された地域で、一般に流通しているもの・特に該当しないものは主な受賞団体所在地です。